

◆巻 頭 言◆

地域に密着した調査研究を目指して

山梨県衛生環境研究所長 浅川 洋 美



昨年度から全環研協議会関東甲信静支部の支部長を務めさせていただいております。日頃、皆様にはご協力、ご指導いただきましてここから感謝申し上げます。

山梨県衛生環境研究所は、県民の健康を守り、生活環境をよりよくするための公衆衛生、環境の科学的・技術的拠点として感染症や食品、医薬品、飲料水、大気、水質などに関する情報を県民に提供しています。

山梨県は2013年に世界文化遺産に登録された富士山をはじめ、南アルプス、八ヶ岳、奥秩父山塊と日本を代表する名峰に囲まれ、森林が県土の78%を占める全国有数の山岳県・森林県です。こうした緑あふれる森林から生み出される清らかな水や澄んだ空気など、本県の恵み豊かな環境は県民の貴重な財産であり、良好に維持し、将来への世代へと引き継いでいかなければなりません。

こうした中、本県では2015年12月に新たな県運営の指針である「ダイナミックやまなし総合計画」を策定し、環境分野におけるアクションプランとして、「健やか・快適環境創造プロジェクト」を示し、魅力あふれる景観づくりと良好な環境保全を目指すこととしています。また、環境の保全や創造に関する施策の基本事項を定めた「第2次山梨県環境基本計画」に基づき、環境施策の総合的、計画的な推進を図り、豊かな環境の保全と創造に取り組んでいるところです。また、豊かで良質な水を生かした本県のイメージアップ、地域・産業の活性化を図るための総合的な指針として、やまなし「水」ブランド戦略が策定されました。

このような施策のあるなか当研究所は、県民の生命と健康を守るため、科学的・技術的中核機関として地域密着した環境保全に関わる試験検査、調査研究に取り組んでいます。

大気汚染及び放射能常時監視、環境水質試験、公共用水や地下水の水質検査、排水試験などの監視を行い「山梨の環境」として毎年報告されています。

本県の調査研究としては水質環境分野では、富士五湖のより詳細な水質の把握を目的にした水質定期調査を

実施し、各湖の富栄養化度の傾向などがほぼ明らかになってきました。また、水生植物の水平分布調査を実施することで水生植物種・量の変遷をモニタリングしています。河川においては水質判定を目的とする付着珪藻群集組成調査、外来底生生物や希少水生昆虫分布調査も実施しています。

大気環境分野では、PM_{2.5}汚染状況と原因究明、ソメイヨシノに着生する葉状地衣類と大気中窒素酸化物濃度の関係について検討しています。

また、新たに導入が見込まれるリニア騒音の類型指定、湖沼底層溶存酸素量、沿岸透明度などに対応できる体制づくりにも取り組んでいます。

環境保全には地道で継続的な調査研究が大切ではないでしょうか。長年のデータの積み重ねがあつて初めて環境の変化を捉えることができるものです。

地方環境研究所を取り巻く状況は、人材の確保、予算の確保など厳しいものではございますが、引き続き共通する課題も多々あると思いますので皆様と相互に協力しながら環境問題に取り組んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。



河口湖上より眺める富士